



菊地 初雄さん (87)
よしこさん (86)
豊里町・下町
1956(昭和31)年11月入籍

けがが治ったら温泉行こうね

★二人のなれ初めは
【よしこ】仲人だったといこに紹介されだね。今では考えられないかもしれないけれど、結婚式で初めて会ったんだよ。
★お互いの第一印象は
【初雄】仲人さんに聞いてだ通りの娘さんだと思っただよ。なんて聞いてだがは秘密だね。
【よしこ】優しそうな人だと思っただよ。
★結婚当時の思い出は
【初雄】消防団や地域奉仕活動などで留守にすることが多かったけど、文句も言わず、家を守ってくれて感謝してるよ。
【よしこ】夫が消防団員になってからは、火事のたびに農作業も放り出して行ってしまおうけど、それも誇らしがったよ。
★現在の楽しみは
【初雄】二人でデイサービスに行つて、みんなと話語りするのが楽しいね。今、大腿骨を骨折してるから、デイサービスでリハビリもすると、心も体も落ち着いて、楽になんだ。
★夫婦円満のコツは
【初雄】忍耐力を養うこと。けんかほしないようにしてるね。
【よしこ】けんかにはのってこないね。私は言いたいこと全部言うけど(笑)。
★これからしたいことは
【二人】歩けるようになったら、二人で温泉に行きたいね。

One's Home

ふるさとへの思い

Monthly Hot Communication



遠藤 繁さん(77)
関東地区
宮城県南方町人会副会長
南方町(須崎)出身

「サンマ。あれこれ」
このところ減少の一途をたどるサンマの水揚げが、今年も歴史的大不漁だという。どこで焼くのか、サンマのにおい。立ち上るサンマの煙は、秋を告げる風物詩だ。その煙が勢いを失い、消え去ろうとしている。
「どっから来たのっしや」「渡波が来たんでがす」。子ども頃、南方にやってくる魚売りや村人の会話だ。足早に傾く秋の日。サンマ売りの引くりヤカーに積み込まれたサンマが、秋日を跳ね返して青々と光る。「サンマは安くて、大助かりだこと。1貫目で40円だつて」。農家のおばさんの声がうれしげに弾む。一貫目という言葉も遠い昔となった。一貫目は3.75銚。一貫目は
令和の秋。あまたの事情が絡み合い、一尾のサンマがなんと約3千円也。冗談じゃない。このどなたが買うというのだろう。コロナ禍に沈み込む、庶民の食卓を支える強い味方だったはずのサンマ。日本の秋に欠かせない風物詩。サンマの水揚げが悲しいほどの地盤沈下。安くておいしいが売りであるサンマが、いかなる高級魚も遠く及ばない高騰となった。毎年庶民の食卓を潤し、安堵をもたらしたサンマがこのまま、永遠に戻って来ないとなったら大変だ。

おらほの道の駅

道の駅「三滝堂」



「直径10センチを超える特大シイタケはバター醤油ステーキがおすすすめ」と教えてくれたスタッフの皆さん。キノコ類も豊富に取りそろえています。



ずっしりとしたハクサイは鮮度も抜群

今月は、道の駅「三滝堂」の猪股浩美店長にお話を伺いました。
Q 新商品やおすすすめ商品などを教えてください
この時期は、リンゴやハクサイがおすすすめです。ハクサイは、霜にあたると風味と甘みが増し、繊維が柔らかくなると言われています。鍋に使うのもよし、漬物にしても

よし、冬の食卓には欠かせない食材です。
リンゴは、ふじ、サンふじ、ジョナゴールド、シナノスイート、トキ、世界一などさまざまな品種が並びます。甘さの中に程よい酸味があるものや甘みが強く酸味が少ないものなど、食べ比べできるのも、この時期ならではです。
また、今年の8月頃から販売を開始した「生食パン」が人気です。トーストやお好みのジャムをつけて食べるのももちろんですが、何もつけずにそのまま食べてもおいしいと評判です。



しっとり耳まで柔らかい「生食パン」(410円)

Q これから開催されるイベントなどを教えてください
来年の2021年にかけて2021円の福袋を個数限定で販売予定です。登米市の食材やお土産商品を詰め合わせた盛りだくさんなセットになっていきます。ぜひお買い求めください。
【問い合わせ】道の駅「三滝堂」
☎0220(23)7891

まちの文芸

短歌

作品募集!
●1月号は俳句川柳です。住所・氏名・電話番号を記入し、11月30日(月)までご応募ください。作品・氏名には全てふりがなを振ってください。
●応募者多数の場合選考して掲載します。

熱燭を一本多くかんつける
十五夜の空窓から眺む
栗駒山に吹きつける風さむざむと
樹々冬枯れて初冠雪まぢか
去りゆける友と植えたる「もくせい」の
五年を終えて香り立ちくる
かりの群れつれて来ないで冬將軍
胡瓜もぐ手に息吹きかける
何処までも目が覚めるよに秋の空
二匹の蜻蛉ゆうゆうと飛ぶ

三浦 智恵 (迫)
及川 慎一 (中田)
熊谷たかよ (中田)
沼倉いね子 (中田)
本宮やつの (中田)

登園す孫を見送るバス待つ間
餌場求めて雁の大群
炎天下声援静か球児らは
総てを込めて球を追いきり
終活や山積みされた思いでを
捨てるたびにぞ消えゆく我が身
かりがねは何時の世誰に習いしか
隊列お見事声も賑やか

石崎よしの (米山)
佐々木康子 (米山)
佐々木まさ (石越)
佐瀬 徳 (南方)
三上久美子 (南方)

応募総数15作品